

迫り来る大地震とは・・・

東海・東南海・南海・小田原沖大地震！



東海・東南海・南海・小田原沖の地震は、約100年～150年の周期で発生しており今世紀前半にも発生すると推定されています。東海・東南海・南海・小田原沖の地震が発生した場合に著しい地震被害が生ずるおそれがあるため地震防災対策（H8.4）を推進する必要がある地域として推進地域に指定されています。

3つの地震対策方法

『いろいろな地震対策があります！』

耐震

耐力壁により地震力に耐える

壁や床などを合板等で補強し、建物全体の剛性を高める工法。2×4工法やパネル工法が代表的。構造用集成材などの建築材料の強化も耐震工法に含まれます。

制振工法

制震ダンパーにより2階のゆれを低減

建物内に伝わった揺れを**特殊装置により吸収**させる工法。高層ビル等には**20年以上前から採用**されています。木造住宅のように**しなやかでやわらかい建物にも大変適しています**。(伝統構法)

免震工法

地盤のゆれが建物に伝わりにくい

基礎と建物間に免震装置を設置し、地盤からの振動を上部建物に伝えないようにする工法。優れた効果がありますが、導入コストと**地盤による制約がネック**となります。

そこでFESが取り入れた〔耐震＋制振〕工法

Ksib

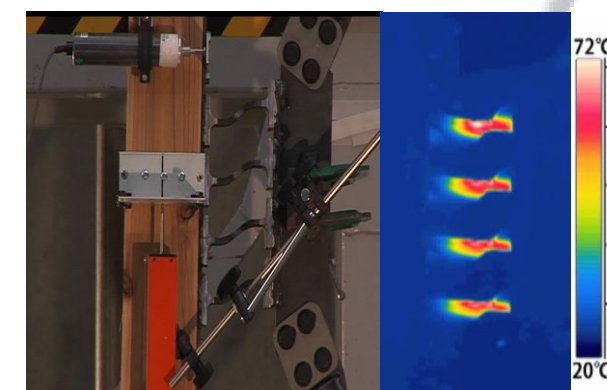
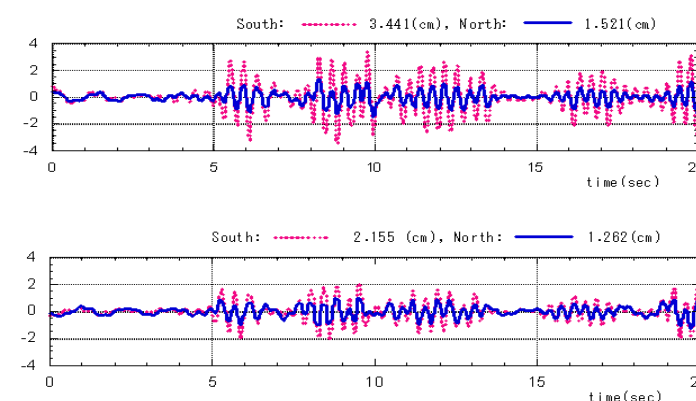
壁倍率**3.9倍**



- 1 **メンテナンスフリー**（温度変化経年劣化に左右されない、ダンパー部分は鉄骨H鋼、カチオン塗装）
- 2 地震時の揺れを吸収し振動エネルギーを減衰させ家具の**転倒を防止**
- 3 大地震の際に内外装のひび割れを防止し補修工事を最低限に抑え**財産保持性を高め**ます



K-プレスsibは、建物を倒れないようにするだけでなく、揺れを抑制し、建具を転倒を防ぐことまで考慮しているため、**室内にいる人の安全性を確保することが出来ます**。また余震などの繰り返しの大地震でも安心してお住まいいただけます。



東京工業大学 建築物理研究センター笠井和彦教授・坂田弘安准教授のグループとの共同開発で商品化に成功。数々の実大実験で検証された最新の制振技術をリーズナブルな価格で導入可能です。K-プレスの配置によって、ゆれ幅が減少していることがわかります。Ksibは、金物全体がJIS規格の鋼材で構成され、鉄の粘りを利用し熱エネルギーへ変換し地震力を吸収し、震度5強のレベルで、ゆれ幅は1/2程度になり、震度も控えめに見て1ランクは下がると考えられます。

FESは建てて頂いたお客様の

大切な家族の命と財産を地震から守りたい ⇒ **全棟基本仕様に採用**